

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

平均正答率は目標値を全学年、上回っている。このことから、昨年度の授業改善推進プランが効果的に成果を上げたと考えられる。

昨年度は、グラフや地図の見方を理解し正しく読み取る力を育む授業や、学習したことを新聞にまとめたり話し合ったりすることで、資料を基に自分の主張を発表する力を育む授業を行った。

(2) 課題

提示された資料を基に記述で解答する問題では、全学年で目標値を下回る問題があった。

- ・複数の資料や地図から情報を読み取り、関連付けて考えることに引き続き、力を入れて授業を改善していく。
- ・タブレットを活用して、課題を解決するのに適した資料、情報を集める活動を引き続き設定していく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	
第5学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。（第4学年時）
第6学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。（第5学年時）

(2) 分析（観点別）

4年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。しかし、昔と今の道具の役割や工夫を答える問題は目標値を下回った。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。しかし、記述で答える問題については目標値を下回る問題もあった。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。

5年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。	全体の平均正答率は、目標値と同程度であった。記述で答える問題については目標値を下回った。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。
---------------------------------------	--	---------------------------------------

6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は、目標値と同程度であった。しかし、森林の役割と保全の大切さを問う問題では目標値を下回った。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。しかし、気候についての理解をもとに、雨温図を判断する問題は目標値を下回った。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・写真や資料の見方を理解させていく。 ・グラフを読み取るときは、何を表しているグラフなのかの確認を行ったうえで、どう変化しているかなどに注目させ、グラフの見方を理解させていく。 ・調べて分かったことを白地図や文などにまとめさせる。 ・フラッシュカードやゲームなどを使って、47都道府県名や県庁所在地、地図記号などの定着を図る。 ・ゲストティーチャーの招へい・博物館見学などを活用し、体験学習を取り入れ、知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用し、大田区や東京都の特色を考えさせたり、授業の中で出てきた地名などを確認させたりする活動を増やす。 ・毎時間の学習課題を解決するために、自分で教科書、資料集等を活用して調べる時間を充分にとる。 ・まとめの時間では、学んだことと自分の生活の結びつきを考えられるよう、活動を工夫する。 ・働く人々の工夫について考えさせる。 ・身の回りで調べられることは調べさせ、自分たちの生活とどのように関わっているのかを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や学習計画を立てたり、見直ししたりして、学習問題を追究し解決させる。 ・学習したことを基に、自分たちができることを考えさせる。 ・見学前に質問や疑問を出させて、調べてみたいという意欲を高めるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 八方位や縮尺を正しく理解させるため、日常的に地図帳を活用し、地理に関する感覚を養う。 ・ グラフや地図の見方を理解し、情報を整理する力を養う。 ・ グラフを読み取る力を高めるために、次の手順を習慣化していく。 <ol style="list-style-type: none"> 1. グラフのタイトル 2. 出典と発行年 3. 縦軸と横軸 4. 全体の変化の傾向 5. 変化の大きい部分 ・ 資料を活用して調べる前に、問いについて予想したり話し合わせたりすることで、「予想を確かめるために必要な資料・情報」を明らかにし、資料活用力を高めていく。 ・ 学習したことを新聞やノート、タブレット PC など様々な方法でまとめる活動を通して、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを基に、自分事として考え、意見をもてるようにする。 ・ 学習したことや調べたことを新聞にまとめたり、話し合ったりすることで、資料を基に自分の主張を発表できるようにする。 ・ 「変化している理由や二つの資料からいえること」について、小グループで話し合う場を設定し、複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える力を育てる。 ・ 社会的事象の意味について調べたり話し合ったりする活動を通して、様々な考えを知るとともに、考える力を養っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用し、資料提示や課題配布の方法を工夫して、問題解決への意欲を高める。 ・ 単元の最初の授業で提示する資料を工夫して、単元を通して学習の問題を追究して解決したいという意欲を高める。 ・ 調べる前に、学習の問題について予想したり、話し合わせたりすることで、予想を確かめたいという意欲を高める。 ・ タブレット PC や ICT 機器を活用し、児童の興味・関心を高めるようにする。 ・ 学習した内容が自分の生活と密接に結び付いていることに気付かせ、意欲を高めるようにする。